

## ステロイド性骨粗鬆症の予防・治療における薬局薬剤師の役割

熊谷 悠亮<sup>1)</sup>、緒形 富雄<sup>2)</sup>、佐藤 絵馬<sup>3)</sup>、前田 守<sup>4)</sup>、長谷川 佳孝<sup>4)</sup>、月岡 良太<sup>4)</sup>、森澤 あずさ<sup>4)</sup>、大石 美也<sup>4)</sup>

- 1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 白石店
- 2) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 旭川医大店
- 3) 株式会社アインファーマシーズ
- 4) 株式会社アインホールディングス

【目的】ステロイド(以下、SAIDs)は強力な抗炎症・免疫抑制作用を持つが、多様な副作用がある。その中で、ステロイド性骨粗鬆症(以下、GIO)は SAIDs が骨形成低下と骨吸収亢進に直接的・間接的に影響することで発生し、骨折による QOL 不良を引き起こす危険性があるため、その予防・治療に努めることが重要である。そこで GIO 予防に対する薬剤師の介入について考察するため、SAIDs 長期服用患者への骨粗鬆症治療薬の処方状況確認、薬局薬剤師の GIO に対する意識調査を行った。

【方法】2019 年 12 月 1 日～15 日に北海道の当社保険薬局 101 店舗に来局した患者のうち、経口プレドニゾロンを 3 ヶ月以上服用している 295 名を対象に「年齢」「既存骨折」「SAIDs 服用量」「骨密度(YAM 値)」「骨粗鬆症治療薬処方の有無」をアンケート調査した。結果は「ステロイド性骨粗症の管理と治療ガイドライン 2014(以下、GL)」に沿って骨折リスクをスコア化し、併用されている骨粗鬆症治療薬の推奨度を評価した。また、上記薬局所属の薬剤師 298 名を対象に「SAIDs 服用患者への服薬指導時に注意する副作用」「GIO 予防への介入経験」をアンケート調査した。本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0043)。

【結果】SAIDs 長期服用患者 285 名から有効回答が得られ、232 名(81.4%)の骨折リスクが GL の薬物治療開始基準に該当するスコア 3 以上であった。そのうち 141 名(60.8%)は骨粗鬆症治療薬が併用されており、74 名(52.5%)は推奨度 A の薬剤が処方されていた。

意識調査は 270 名から有効回答が得られ、「SAIDs 服用患者への服薬指導時に注意する副作用」では感染症(249 名、92.2%)が最も多く、次いで消化管障害(199 名、73.7%)、ムーンフェイス(132 名、48.9%)、GIO および糖尿病(129 名、47.8%)であった。GIO 予防への介入経験は 16 名(5.9%)にあり、「専門科への受診勧奨」が 12 名(75.0%)と最も多かった。

【考察】本結果より SAIDs 長期服用患者の約 8 割に GIO 薬物治療の必要性が示唆されたが、そのすべてに薬物治療が行われていない状況が確認できた。また、薬局薬剤師の GIO に対する認識は十分とは言えず、介入経験も少ない現状が示された。SAIDs は診療科の区別なく全領域で使用されるため、服薬一元管理を担う薬局薬剤師が GIO を認識し、GL に沿って骨折リスクや薬剤推奨度を評価し、エビデンスをもって GIO 予防・治療に介入する必要があると考える。

(第 53 回日本薬剤師会学術大会(2020 年 10 月, 札幌)にて発表)